

# ウズベキスタン

Republic of Uzbekistan

	2014年	2015年	2016年
①人口:3,212万人(2017年1月1日)			
②面積:44万8,970km <sup>2</sup>			
③1人当たりGDP:2,122米ドル (2016年)			
④実質GDP成長率(%)	8.1	8.1	7.8
⑤消費者物価上昇率(%)	6.1	5.6	5.7
⑥失業率(%)	5.1	5.2	5.2
⑦貿易収支(100万米ドル)	△1,795	△1,742	△1,964
⑧経常収支(100万米ドル)	1,069	△356	907
⑨外貨準備高(100万米ドル)	24,140	24,400	24,650
⑩対外債務残高(グロス) (100万米ドル)	8,399	10,521	11,413
⑪為替レート(1米ドルにつき、 スム、期中平均、公定レート)	2,310.92	2,567.98	2,965.25

〔注〕③⑧:2015、16年は推計値、⑤:各年12月の前年同月比

〔出所〕①②④~⑥:ウズベキスタン国家統計委員会、③⑧:IMF、⑦⑨⑩:アジア開発銀行(ADB)、⑪:ウズベキスタン中央銀行

2016年のウズベキスタン経済は、四半世紀以上続いた政権が交代し成長のテンポがやや減速した。新政権は法支配の下に経済改革を推進する意向。2017年は懸案の外為規制にどこまでメスが入られるか注目される。日系企業ビジネスは円借款事業がけん引している。

## ■成長テンポ、わずかに減速

ウズベキスタン国家統計委員会によると、2016年の実質GDP成長率は前年比7.8%と前年実績から0.3ポイント減となった。引き続き高成長は保っているが、2007年以来の8%台成長から若干減速した。部門別でも鉱工業生産が前年比6.0%増(2015年は8.0%増)、農業生産6.6%増(6.8%増)、建設12.5%増(17.8%増)など、いずれも成長の勢いに陰りがみられる。ロシアへの出稼ぎ労働者からの送金額は前年比8.1%減の24億1,345万ドルとなり、2015年(46.3%減)ほどの幅ではないが減少傾向が続く。通貨スムの公定レート(現金ベースの換金に適用される交換所レート)は2017年5月末時点の1ドル=3,883スムに対し、市場レート(闇レート)は8,400スムと、2015年来、2倍以上の乖離幅で推移している。公定レートの月当たり切り下げ幅は2016年1月~9月の0.6~0.8%から10月以降は1.5~5.6%へと拡大し、切り下げのスピードが速まっている。

2016年9月のイスラム・カリモフ前大統領(78歳)逝去にともなう12月の大統領選を経て、2003年来首相を務めたシャフカト・ミルジヨエフ氏(59歳)が当選した。2017年2月には司法改革などを掲げる「2021年までの5つの優先的発展方針の行動戦略」が採択された。選挙前には新外為法案がパブリックコメントに付されたことから、ビジネスの障害と指摘されてきた外為規制の緩和に期待がかかる。他方で閣僚や地方首長の人事異動、省庁再編など大胆な改革により、日系企業を含むビジネスの現場では一部混乱もみられる。

2017年の投資プログラム(2016年12月採択)では、政

府保証付き外国直接投資受け入れの総額を前年比38.5%増の18億5,440万ドルと見積もっている。政府保証枠は2年連続で拡大。ビジネス環境の悪化が懸念される中、外国投融資を引き留めようという政府の意向がうかがえる。

2017年初の税率改定では、被雇用者負担となる強制国民年金保険(年金基金)が2016年の7.5%から8.0%へと0.5ポイント引き上げられた以外に主な公租公課の税率に変更はない。輸出関連企業向けの税率緩和措置も継続される。

政府は2017年の実質GDP成長率見通しを2016年実績と同じ7.8%(2016年12月採択予算案)とした。国際金融機関によると、世界銀行は2016年11月時点の見通し7.4%を2017年5月には0.2ポイント上方修正し、7.6%とした。輸出品目の国際価格、出稼ぎ労働者からの送金額、個人消費それぞれに緩やかな回復が見られることが背景にあるとしている。国際通貨基金(IMF)、欧州復興開発銀行(EBRD)は2016年秋時点での2017年の経済成長見通しを、2017年第一四半期終了後も6.0%と6.2%にそれぞれ据え置いた。アジア開発銀行(ADB)は、直近の見通し(2017年4月時点)では、前回(2016年3月)より0.3ポイント下方修正し、7.0%としている。

## ■輸出入ともに微減、貿易黒字は縮小

ウズベキスタン国家統計委員会によると2016年の貿易は、輸出(通関ベース、サービスを含む)が前年比2.6%減の121億7,868万ドル、輸入が2.3%減の121億3,070万ドルとなった。貿易収支は前年の9,097万ドルの黒字

から4,799万ドルへと縮小した。輸出は中国が昨年に続き最大の輸出先であったものの、金額ベースで19.1%縮小した。天然ガスが大宗を占めるエネルギー製品が42.2%減、綿花が72.2%減となったことが要因である。輸出先2位となったロシアは、前年比1.4%減となった。なお、2015年に大幅に減少したGMウズベキスタン製自動車のロシア向け輸出は、ロシアでの販売台数が半減したことから引き続き減少に歯止めがかかっていない。2015年に輸出先2位だったカザフスタンは48.9%減の3位へ後退した。2015年8月の近隣諸国への食料品のトラック輸送禁止措置を受け、食料品が58.9%減になったことに加え、2015年6月のロシア・ガスプロムとカザフスタンの石油天然ガス公社カズムナイガスらとのスワップ契約により、ウズベキスタン産天然ガスのカザフスタン南部向け輸出がロシア向けとして統計に含まれるようになったことなどがある。輸入については、4位の韓国が前年比44.4%減となったことが特筆される。ウズベキスタン国産車生産不調の影響により、組み立て部品輸入額が大幅減となったためとみられる。

### ■三菱商事、大型発電所EPC契約<sup>(注)</sup>を相次ぎ受注

日本の「貿易統計(通関ベース)」によると、2016年のウズベキスタンへの輸出額は前年比36.1%減の1億6,197万ドル、輸入額は4.3%減の261万ドルとなった。輸出は円借款によるタリマルジャン火力発電所増設事業向けガスタービン、および同発電機納入が一段落した一方、デジタルTV放送全国網プロジェクト向けの関連機器の輸出が始まっている。

ウズベキスタンからの輸入額は、従来大半を占めていた金が2015年に実績ゼロとなり大きく縮小していたが、2016年は京都の繊維商社による綿糸の輸入が伸長した。今治などへ高級タオル用の素材として出荷されている。

公的資金案件では2016年10月、三菱商事、三菱日立パワーシステムズ(MHPS)がナボイ発電所第2号施設の建設案件をEPC契約でトルコのチャルックエナジーとともに受注した。MHPSのコンバインドサイクル型ガスタービン(GTCC)設備を設置する。本事業の円借款の借款契約(L/A)締結は2013年8月、貸付上限は348億7,700万円である。11月には同じく三菱商事、MHPS、チャルックエナジーがフェルガナ盆地ナマンガン州のトラクルガン発電所建設工事をフルターンキー契約で受注。円借款(L/A)締結は2014年11月、貸付上限718億3,900万円)で実施される。新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の実証事業では2016年10月、フェルガナ市の小規模発電所等2か所でのガスタービンコジェネレーションシステムの導入について基本協定書(MOU)が締結さ

表1 ウズベキスタンの主要国別輸出入(通関ベース)

(単位:100万ドル、%)

	輸出 (FOB)			
	2015年	2016年		
	金額	金額	構成比	伸び率
中国	2,472	1,999	16.4	△19.1
ロシア	1,821	1,795	14.7	△1.4
カザフスタン	1,849	945	7.8	△48.9
トルコ	790	686	5.6	△13.1
アフガニスタン	444	517	4.2	16.4
イラン	318	350	2.9	10.2
韓国	176	202	1.7	14.4
タジキスタン	160	165	1.4	2.8
キルギス	100	121	1.0	21.5
フランス	151	120	1.0	△20.4
日本	10	16	0.1	51.4
合計(その他含む)	12,508	12,179	100.0	△2.6
	輸入 (CIF)			
	2015年	2016年		
	金額	金額	構成比	伸び率
ロシア	2,635	2,398	19.8	△9.0
中国	2,258	2,254	18.6	△0.2
カザフスタン	848	954	7.9	12.5
韓国	1,563	869	7.2	△44.4
ドイツ	489	492	4.1	0.7
トルコ	413	486	4.0	17.7
米国	240	410	3.4	70.5
ブラジル	315	355	2.9	12.6
インド	261	318	2.6	22.1
リトアニア	264	278	2.3	5.3
日本	245	248	2.0	1.3
合計(その他含む)	12,417	12,131	100.0	△2.3

[注] サービスを含む。  
[出所] ウズベキスタン国家統計委員会

表2 ウズベキスタンの主要品目別輸出入(通関ベース)

(単位:100万ドル、%)

品目	輸出 (FOB)			
	2015年	2016年		
	金額	金額	構成比	伸び率
エネルギー製品	2,685	1,714	14.1	△36.2
サービス	3,061	3,205	26.3	4.7
綿繊維	736	637	5.2	△13.4
鉄鋼・非鉄金属	824	709	5.8	△14.0
機械・設備	159	221	1.8	38.5
食料品	1,316	694	5.7	△47.2
化学品・プラスチック製品	613	841	6.9	37.2
その他	3,112	4,158	34.1	33.6
合計	12,508	12,179	100.0	△2.6
品目	輸入 (CIF)			
	2015年	2016年		
	金額	金額	構成比	伸び率
機械・設備	5,027	5,018	41.4	△0.2
化学品・プラスチック製品	2,108	2,120	17.5	0.5
食料品	1,585	1,440	11.9	△9.2
鉄鋼・非鉄金属	919	921	7.6	0.1
エネルギー製品	725	589	4.9	△18.8
サービス	954	802	6.6	△15.9
その他	1,098	1,242	10.2	13.1
合計	12,417	12,131	100.0	△2.3

[出所] ウズベキスタン国家統計委員会

表3 ウズベキスタンの対内直接投資の推移  
〈実行ベース、ネット、フロー〉

(単位:100万ドル)

	2013年	2014年	2015年	2016年
対内直接投資額	629	626	1,068	n.a.

[出所] 国際貿易開発会議(UNCTAD)

れ、2017年4月に事業開始式が挙行された。丸紅ユーティリティ・サービスと川崎重工業が参画する。

(注) EPC契約:「鍵をまわす」だけで工場設備を運転できる状態に仕上げ、引き渡す「設備一括請負契約」の形態。「フルターンキー契約」とも言う。(EPC = Engineering Procurement and Construction)